

(国語科)

確かな読む力を育成する国語科学習指導

～ 目的をもって学び、表現につなげる授業をめざして ～

大阪市立横堤小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校の児童は、明るく朗らかで課題にまじめに取り組む良い面がある。その一方で、コミュニケーション力の不足、つまり、自分の考えを的確に表現することが苦手な児童が多く見られた。そこで、言語力の基礎となる国語の学習を見直し、「文章の内容を読み取り、自分の考えを表現できる子ども」の育成をめざして、昨年度より「確かな読む力を育成する国語科学習指導」と主題を設定し、研究に取り組むことにした。

2. 研究の経過

昨年度は説明文教材を中心として取り組んだ。その結果、説明文の構造の特性をとらえて読み進め、活用することに一定の成果が見られた。また、全学年共通のハンドサインや「話す」「聞く」姿勢の掲示、学年に応じた音読の仕方の工夫、並行読書の取り組み、交流の場の位置づけなどを行うことができた。一方で、課題として、読書量や言語への親しみ方に個人差があることなどがあげられた。

児童が主体的、能動的に学習を進めるためには「読む」目的をしっかりとつかむことが大切である。また、第2次で読みを深め、第3次の学習が自分の言語活動につながるような授業をつくる必要があると考え、本年度はサブタイトルを「目的をもって学び、表現につなげる授業をめざして」とし、教材を文学教材に広げ、さらに研究を深めることにした。

3. 研究の視点と方法

(1) 視点

研究主題にせまるため、研究の視点を次の4点とした。

- ① 児童に「読むこと」の目的を持たせるための工夫
- ② 「読み」を深めるための指導法の工夫
- ③ 日常的な活動の工夫
- ④ 授業研究会の充実

(2) 研究の方法

授業研究による研究と考察を中心に進めた。授業研究を進めていくポイントとして、以下の4点を考えた。

- ・ 教材を通してつきたい力を明確にした言語活動の設定と指導計画の作成。
- ・ 児童の意欲を継続し見通しをもって学習に臨めるように指導計画の可視化を工夫。
- ・ 論理的な思考力をつける学習展開の工夫。つまり、叙述に即した根拠や理由の説明の仕方の工夫と交流の場の位置づけ。
- ・ 活発な話し合いができるような研究会の実施の仕方の見直し。

また、児童の言葉の力の支えとなるように読書活動の充実に取り組むこと、昨年度の実践を踏まえてさらに、全学年での取り組みを考えることにした。

4. 研究の内容（実践例）

- 2年 教材「お手紙」

単元名 がまくんとかえるくんが出てくる物語を読んで、好きなところを紹介しよう

視点① ・同じ登場人物のシリーズの並行読書を行い紹介文を書いて伝え合う活動の設定。
・挿絵をもとに場所・人物・行動を整理した学習計画の掲示。

視点② ・教科書に色分けシールの貼付や登場人物カードを使用して会話を整理。
・登場人物になりきった動作化や音読による読みの深化。
・第1場面と第4場面の比較（挿絵の比較→文章表現の比較）。
・「自分は〇〇と思う。なぜかというところ△△だから。」のような叙述に即して根拠を言う発表の仕方。

○ 5年 教材「注文の多い料理店」

単元名 宮沢賢治の世界を紹介しよう

視点① ・宮沢賢治の作品を読みブックレポートにまとめて交流する活動の設定。
・ブックレポートの実例の紹介と学習計画の提示、宮沢賢治の作品の並行読書。

視点② ・課題をもって一人学びに取り組み、読み取りに生かす。
・学習内容の掲示。
・伝記「宮沢賢治」の重ね読み。

○ 校内全体の取り組み

週2回の朝の読書タイム（火・金）の他、図書委員会や図書の補助員さんによる読み聞かせをした。さらに、学校図書館の整備を行い、教科書に紹介されている書籍の別置を行ったり、学級文庫を充実し、教室に国語辞典を常置したりした。

週1回の視写タイムを全校一斉に行い、学年の実態に応じた視写プリントを作成した。

授業研究会では、拡大指導案の掲示、付箋の活用による意見の共有化を行い、グループ討議を中心に多くの意見交流をして、活性化を目指した。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ① つけたい力を明確にした第3次の活動を設定し、学習計画の可視化や、並行読書のために本を教室へ常置することにより、児童は目的意識を持って「読むこと」に取り組み、第3次で生き生きと活動することができた。
- ② 学習活動の中に音読の場やペアトークなどの交流の場を位置づけることにより、学習展開に一定の流れを作ることができた。
- ③ 一人学び、ノートやワークシートの工夫などにより、児童一人一人が自分の考えを持ち、交流によって、個々の考えを広げたり深めたりすることができた。
- ④ 「根拠を明らかにして自分の考えを述べる」という意識が、他教科での発言にも生かされてきた。
- ⑤ 朝の読書タイムや視写タイムを学校全体で取り組むことにより、いろいろな文章に親しむ機会が保障された。
- ⑥ 授業研究会の充実により、全教職員の意識の共有化と指導力の向上が図れた。

(2) 課題

- ① 児童がそれぞれの考えを更に練り上げることができるような交流の場を工夫する。
- ② 児童の主体的な活動を活発に行えるような学習展開の工夫をする。
- ③ 読書活動や言葉に親しむ活動を続け、語彙を豊かにするよう取り組みを進める。
- ④ 授業研究会、研究討議会の運営の仕方を更に工夫し、充実したものにする。